

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者 遠藤春香

平成 22 年度 (入学)・編入

1. 研究課題:

オスマン朝下におけるスーフィズムの思想解明

2. 派遣期間:

平成 24 年 2 月 4 日 ~ 24 年 3 月 9 日 (35 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の派遣の目的はエジプトの首都カイロ市内に点在する本屋、およびカイロ大学図書館、エジプト国立図書館などを訪問し、スーフィズム関連の文献収集を行うことであった。具体的には、博士予備論文で取り上げたエジプト出身の思想家シャアラニーの刊本および写本を中心として、彼に影響を与えた思想家たちの著作、およびオスマン朝前期に関連した歴史書などを収集することである。

調査者は予定していた公共機関（アズハル大学図書館、エジプト国立図書館、カイロ大学図書館、アラブ写本研究連盟所）を訪問し、それぞれにおいて所蔵調査を行った。そして本研究が対象とするシャアラニーの写本のいくつかを閲覧し、必要に応じて CD-ROM の形で写本を入手した。またカイロ市内の本屋において、シャアラニーの刊本の多くを収集した。さらにエジプト歴史協会研究所において、オスマン朝下スーフィズムの歴史を記述した資料や、アラビア語で書かれたシャアラニーの先行研究の写しを得ることができた。

文献収集に加えて、調査者はカイロ市内にあるシャアラニーの墓廟、また彼の師であるアリー・ハウワースの墓廟に参詣することができた。以上を踏まえると、本調査の目的は大旨達成できたと言える。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の調査の反省点・今後の課題として、事前準備の徹底が挙げられる。今回の調査では、現地に行ってからそれぞれの公共機関や訪問場所の情報を集め、収集する写本の選別を行ったために、調査を効率良く進めることができなかった。また綿密に計画を立てず日ごとに調査を慣行したため、様々な面で不具合が生じ、目的としていたことをこなすのに思った以上に時間がかかってしまった。現地に行く前に事前準備を徹底しておくことが、今後の海外渡航の課題である。

一方で今回の調査を通じ、アラビア語会話力の向上に加え、図書館の利用方法や写本の所蔵先、および本屋の場所などを確認できた。今後はより効率良く調査が行えることが期待される。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

一月以上の調査を慣行するには、本プログラムの支援は非常に有益なものであった。しかし指定された国にしか渡航できないこと、一月の支援額が限られていることなど、様々な制約もあった。今後はもう少し自由度の高いプログラムがあれば良いように思う。

署名